

第6回帯広市総合計画策定審議会第3専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年6月24日(火) 15:30~17:30

2. 場 所 市役所10階第4会議室

3. 議事概要

(1) 上下水道について

【委員】

大都市では雨水をためる取り組みなども行っている。防災の観点からも水資源をいかに確保するかは大変重要な視点。

【委員】

水は、今やあって当たり前の空気のような存在となっているが、水源である山は荒れてきており、水源地への植林など森を守る取り組みも大切。

【委員】

水を取水・給水するだけでなく、森林の保全も含め、川の水質を守ることもこれからは考えていかなければならない。また、企業では水道水を利用せず地下水を利用しているところもあるようだが、そうしたところに理解してもらうことも必要。

帯広市の下水道整備率が高いのは、素晴らしいことだが、水道料金が高いのが残念。

【委員】

営農用水も高く大きな負担。山もかつてに比べると木が減っている。毎年植林しているが、みんなで森を守ろうという意識が大切だと思う。

【部会長】

水と空気はタダだという意識が広がっているように思うが、様々な人の努力とコストをかけて守られているものであり、これを守っていこうという市民一人一人の意識が大切だと思う。

【委員】

他市では大規模な断水があったが、そのようなことのないよう安心して利用できるよう、確実な供給体制を構築することが必要。下水道については、以前、下水道の汚泥を畑で利用していたが、市民には、下水に流せば消えてなくなるのではなく、必ず残るものがあることを知ってもらうべきである。

【部会長】

水源の保全も、例えば子どもたちを山に連れて行くなど、市民を巻き込みながら、水源を守るために様々な努力が払われていることを教えることが大切である。

(2) 墓地・火葬場について

【委員】

子どもに負担をかけない新たな墓地ニーズが出てきているという話であったが、墓地は代々守っていくものという認識であり違和感がある。

【委員】

墓地の維持にもコストがかかる。現在は永代使用の契約になっていると思うが、受け継ぐ人がいなくなったときに対応できるよう、土地に対する契約の仕方や管理の仕方もある必要がある。

【委員】

墓地については多様化を図った方がよい。自分が次男で子どもが本州というケースもあり、墓も「何々家の墓」というものは少なくなってきた。ニーズは変わってきており。墓の運営の仕方時代の流れに合わせていった方が良い。

【委員】

墓地の整備が必要なときに、用地取得できないというのでは困る。先を見通しながら墓地の整備を進めることが必要。また、墓地に対する様々なニーズを踏まえて墓地の整備運営をしていくのがこれからの流れではないか。

【部会長】

火葬場は、今後、火葬件数の増加に対応するため、稼働率を上げる運営方法などの研究も必要である。

(3) 平和と人権・ユニバーサルデザイン・アイヌの人たちについて

【委員】

人権については、人権を守るということ自体は大切なことだが、人権に関する新たな法案をめぐる政治的な動きもあり、こうした動向に注意を払うことが必要である。

ユニバーサルデザインは、ハードよりむしろ心のユニバーサルデザインが大事である。

アイヌの人たちについては、自然と共生する姿勢などをもっと打ち出していくべき。

【委員】

なぜ帯広が平和都市宣言をしたのかというところを考えるべき。草の根的な取り組みも必要だが、国家レベルの大きなテーマであり、その中での市の関わり方考えるべき。

【部会長】

平和という大きなテーマに市として取り組む意味を考え直す必要がある。子どもたちに戦争を体験してきた人の話しなどを伝え、平和の大切さを教えていくことが大事なのではないかな。

【委員】

これまで、積極的に伝えてこなかった面はあるが、帯広を舞台にした戦争体験など、伝えられる話はたくさんある。

【委員】

戦争の悲劇を子どもたちに純粋に伝えることが大切である。

【委員】

最近の親が教えられない。学校で教えられた戦争の話が強く印象に残っており、戦争の悲惨さを伝えていくためには、学校で教えることも大切だと思う。

【委員】

実践的には取り組んでいる。学校で伝える場合には偏った形にならないように注意が必要である。

【委員】

ユニバーサルデザインが、国籍の違いなども含めた考え方であることをはじめて知った。観光面などでも外国語標記などの配慮も必要ではないかな。

【部会長】

教育が行き届いているのかむしろ子どもの方が、弱者に対し抵抗なく手を差し伸べる意識を持っている。子どもに対する教育は大変効果的だと思う。

【委員】

教育の分野では2中がノーマライゼーションの活動を行っている。こうした活動を続けていくことが大事である。

【委員】

総合学習の時間に、福祉をテーマに取り組んでいる学校も多い。新しい学習指導要領では総合学習の時間が縮小されることになっているが、こうした考え方は、子どものときから浸透させることが大事だと思う。

【委員】

4つの地区でノーマライゼーションの推進組織を立ち上げ、活動を行っている。こうした活動を全市的に広げていくことが必要である。

【委員】

アイヌの人たちに関する資料は、百年記念館にも集まっている。こうした資料をもっとうまく活用した方がよい。

【委員】

今の子どもたちの中には、アイヌの人たちに対する差別的な意識はないと思う。

(4) その他

【委員】

今後は、人口15万人程度の都市規模を想定した堅実な方向でまちづくりを進めるべき。また、産業振興を考えた場合、十勝で取り組むべきテーマはやはり「食」であり、積極的に進めるべきである。

【委員】

食料基地という位置づけをしっかりと打ち出し、そのためにこの10年間で何ができるか考えていくべき。

【部会長】

水・空気を含め、安心・安全面からも「食」をいかにアピールしていくかがこれからのテーマだと思う。

以上